

機関番号：32696

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20520184

研究課題名 (和文) 上海に関する表象文化研究

研究課題名 (英文) A study on Cultural Representations of Shanghai

研究代表者

渋谷 香織 (SHIBUYA KAORI)

駒沢女子大学・人文学部・教授

研究者番号：10196446

研究成果の概要 (和文)：1920年代から30年代にかけての上海表象が描き込まれたテキストとして、横光利一の長編小説「上海」を取り上げ、研究の土台となる本文校訂とプレテキストの発掘を行った。この小説は二度改稿されており、その異同を踏まえた電子テキストの作成を2008年7月より開始し、2010年3月に完成した。その上で、テキスト内に描かれた五・三〇事件や外国人、あるいは経済といった表象のプレテキストを発掘し、発表した。

研究成果の概要 (英文)：As the text that had the Shanghai representation from the 1920s to the 30s, the authors embraced the full-length novel “Shanghai” written by Riichi Yokomitsu, and collated the text, and found the unknown pretext for the foundation of the study. This novel was rewritten twice. We started making the e-text on the basis of the variant from July, 2008 and completed it in March, 2010. The authors also found the pretext of the representation such as May Thirtieth Incident, foreign peoples, or the economy written in the text and presented it.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|-----------|-----------|
| 2008年度 | 1,500,000 | 450,000 | 1,950,000 |
| 2009年度 | 1,600,000 | 480,000 | 2,080,000 |
| 2010年度 | 300,000 | 90,000 | 390,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,400,000 | 1,020,000 | 4,420,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：近・現代文学 表象文化 上海

1. 研究開始当初の背景

上海という「都市」表象の研究は、前田愛『都市空間のなかの文学』(1982年、筑摩書房)以後かなり進んでおり、その中でも、和田博文らによる『言語都市・上海1840-1945』(1999年、藤原書店)は、上海という「都市」に関わるさまざまな言説を取り上げ示唆に

富んでいる。しかし、上海に関する「民族」「ジェンダー」などの表象については、まだまだ言及されていないのが実情である。

一方で、2001年の横光利一文学会発足以降、横光利一の作品に関して様々な研究の方向性を示す研究論文が、学会誌等に掲載されることも多く、横光研究は広がりを見せている。

2006年には『横光利一の文学世界』（石田仁志、渋谷香織、中村三春 翰林書房）が出版され、横光研究の様々な方向性が示されるようになっていく。しかし作品によっては基礎資料の整備が進んでいないものも多く、「上海」という作品についても、様々な観点の論文が発表されているものの、改稿も多く、定本を何にするか、注釈をどのようにつけるかなどといった基礎的な研究は進んでいなかった。

2003年11月、研究代表者を中心に共同で、「上海」の基礎資料作成を始めることにした。初出の雑誌、昭和7年改造社から出版された『上海』、昭和10年書物展望社から出版された『上海』の複写資料を収集し、2006年、手作業ながら異同表を完成させた。共同で異同表作成作業を進めるうちに、横光の「上海」だけではなく、当時の上海表象に関する研究を行なう必要性を認識するに至った。それは、横光の改稿による作品の揺れが当時の日本人の国際都市上海への認識に対する揺れではないかと思いついたためである。

2. 研究の目的

本研究グループでは、1920年代以降1940年代までの上海に関する表象文化に焦点を合わせ、そこに描かれた「民族」や「ジェンダー」などの表象を、出版や映画などのメディアを通して、総合的に検証することを目的とする。

具体的には、横光利一の「上海」の異同表をデータベース化して公開し、広く研究資料として提供するとともに、二度の改稿を経た「上海」という作品に描かれた「民族」「ジェンダー」等の様々な表象を取り上げ、他の文学作品や映画に表れた1920年代以降の上海に関する表象文化と比較対照して検討する。先行する上海の「都市」表象研究の成果や、映画メディアに関する研究を評価し、さ

らなる上海に関する総合的な表象文化研究を進めていくことが、当時の上海を訪れた日本人達の「外」の視点と、その上海で生まれ育った者達の「内」の視点を同時に捉え、今までと異なった側面から見直すことにつながると考えられるからである。

3. 研究の方法

(1) 横光利一「上海」には〈ある長篇（初出）〉・〈改造社版〉・〈書物展望社版〉という大きな三つの異本があり、これらの異同の比較対照が研究の大きな課題となっていた。

これらの三つの異本の全てを電子テキスト化し、公表するために、研究補助者を使いデータ入力作業をおこなうとともに、どのようなスタイルの異同表が広く研究に供されるものであるか検討を重ねながら、ウェブデザインを依頼し、電子テキストを作成した。完成後も、引き続きデータベース化した異同表の再検討を行った。

(2) 1920年代以降1940年代までの上海に関する表象文化に焦点を合わせ、そこに描かれた「民族」や「ジェンダー」などの表象を、出版や映画などのメディアを通して総合的に検証するために、出版や映画などのメディアを通して描かれた当時の上海に関する表象文化について資料の収集と整理および分析をおこなった。

まず、横光利一の「上海」（1928～1935）という長編小説を軸に、そこに描かれた上海の社会的・文化的表象を取り上げ、個々の研究者それぞれのアプローチによって分析を行う。収集した上海表象に関する資料の分析を通して、横光利一「上海」という作品に描かれた様々な文化表象の位相についてまとめ、代表者、分担者それぞれが得た視座を検討会、研究発表会を開き、検討を続けた。また、研究映画における表象文化についての研

究検討会ならびに研究報告会も行った。そのうえで、上海に関わる他の文学作品・その他の表象文化の領域にも視野を拡大し、それらの比較、考察から、中心的「磁場」(トポス)としての上海に関わる表象文化を総合的に捉えるべく研究を進めた。

また、平成 21 年度には研究分担者、連携研究者 4 名が上海で資料収集および実地調査を行い、1920 年代から 40 年代の上海という都市の表象がどのような形で残存しているかを確認した。また、上海では、研究協力を依頼していた復旦大学李征氏に面会し、ディスカッションおよび共同踏査をすることで、現代中国における上海の表象文化研究についての理解を深めた。

平成 22 年度は資料収集を継続しながら、上海に関する表象文化、なかでも「民族」や「ジェンダー」などの表象が出版や映画などのメディアにどのように描かれているのか分析、再検討するとともに、歴史的観点も踏まえたうえで、1920 年代以降 1940 年代までの上海に関する表象文化研究について総括した。

4. 研究成果

(1) 横光利一「上海」電子テキストの作成と異同について

横光利一の長編小説「上海」の電子テキストは、2008 年 7 月より作成を開始し、2010 年 3 月に完成した。現在、「横光利一『上海』デジタル版」の名称で一般公開している。

「上海」は、1928 年 11 月から 1931 年 11 月にかけて雑誌「改造」に断続的に 7 回掲載された。初出の時点では「上海」という題名ではなく、それぞれ「風呂と銀行」「足と正義」「掃溜の疑問」「持病と弾丸」「海港章」「婦人——海港章」「春婦——海港章」といった題名がついている。「風呂と銀行」の末尾には「(ある長篇の序章)」という注記があり、

以下同様に「足と正義」は「(或る長篇の第二篇)」、「掃溜の疑問」は「(或る長篇の第三篇)」、「持病と弾丸」は「——或る長篇の第四篇」、「海港章」は「(ある長篇の第五篇、及び前篇終り)」となっている。「婦人——海港章」「春婦——海港章」には注記がない。「海港章」発表の 1929 年 12 月から、「婦人——海港章」発表の 1931 年 1 月まで、1930 年を挟んで一年以上の空白期間がある)

上記の「改造」掲載部分に、1932 年 6 月発行の「文学クオタリイ」に掲載された「午前」を含めて、〈ある長篇(初出)〉と呼ぶことにする。これに大幅な改稿を行い、一編の長編小説としてまとめられたものが、1932 年 7 月に改造社より『上海』の題名で刊行された。これを〈改造社版〉と呼ぶことにする。さらに 1935 年 3 月に、〈改造社版〉に改めて大幅な改稿を行ったものを書物展望社より刊行した。その「序」で横光は「この書をもつて上海の決定版としたい」と記している。これを〈書物展望社版〉と呼ぶことにする。このように、「上海」には〈ある長篇(初出)〉・〈改造社版〉・〈書物展望社版〉という大きな三つの異本があり、これらの異同の比較対照が研究の大きな課題となっていた。

今回作成した「横光利一『上海』デジタル版」は、これらの三つの異本の全てを電子テキスト化したものである。ページの左上の「原稿全文(横書き)」をクリックすると、まず〈ある長篇(初出)〉の「風呂と銀行」の「一」が表示される。画面をスクロールすることで初出本文の全文を読むことができるし、画面上部の青い章番号をクリックすることで、見たい部分へスキップすることもできる。「足と正義」「掃溜の疑問」「持病と弾丸」「海港章」「婦人——海港章」「春婦——海港章」および「午前」も同様に閲覧できる。

画面の最上部には「ある長篇(初出)・改

造社版「上海」・書物展望社版「上海」という青い文字があり、ここをクリックすることで、それぞれの異本へ表示を切り替えることができる。〈改造社版〉は「一」から「四五」まで、〈書物展望社版〉は「一」から「四四」までの青い章番号が表示されているので、それをクリックすることで初出本文と同様にスキップできる。

さらに、最初のページに戻って、右上の「『上海』テキスト対照表」をクリックすると、〈ある長篇（初出）〉・〈改造社版〉・〈書物展望社版〉の三つの本文を同時に画面に表示することが出来る。最初のページの右側に列挙してある「分割表示」の「『上海』対照表（1）～（8）」の青い文字をクリックすることで、初出の「風呂と銀行」「足と正義」「掃溜の疑問」「持病と弾丸」「海港章」「婦人——海港章」「春婦——海港章」および「午前」の本文と、それに対応する〈改造社版〉と〈書物展望社版〉の本文が、同時に表示されるようになっている。

例えば「『上海』対照表（5）」をクリックすると、画面に向かって左側に、ある長篇（初出）「海港章」（『改造』一九二九・十二）中央に、改造社版『上海』（一九三二・七）「三五～四〇・四四・四五」右側に、書物展望社版『上海』（一九三五・三）「三五～四〇・四四」がそれぞれ表示されることになる。それぞれの本文は別々にスクロールできるようになっている。

また、この「『上海』テキスト対照表」には、三つの本文の異同が示されている。ここでは〈ある長篇（初出）〉・〈改造社版〉・〈書物展望社版〉のそれぞれの冒頭部分を引用してみる。

〈ある長篇（初出）〉

風呂と銀行

—

満潮になると河は膨れて逆流した。火の消えたモーターボートの首の波。舵の並列。抛り出された揚げ荷の山。鎖で縛られた棧橋の黒い足。測候所のシグナルが平和な風速を示して塔の上へ昇っていった。海関の尖塔が夜霧の中で煙り出した。突堤に積み上げられた樽の上で苦力達が湿つて来た。鈍重な波の上で破れた黒い帆が傾いたまゝ動き出した。

参木は街を廻つて帰つて来た。

波打際のベンチにはロシア人の疲れた春婦達が並んでゐた。彼女らの黙々とした瞳の前で潮に逆らつた■■■[サンパン]の青いランプが廻つてみた。

〈改造社版〉

改造社版『上海』（一九三二・七）

—

満潮になると河は膨れて逆流した。火を消して蝟集してゐるモーターボートの首の波。舵の並列。抛り出された揚げ荷の山。鎖で縛られた棧橋の黒い足。測候所のシグナルが平和な風速を示して塔の上へ昇っていった。海関の尖塔が夜霧の中で煙り出した。突堤に積み上げられた樽の上で、苦力達が湿つて来た。鈍重な波のまにまに、破れた黒い帆が、傾いてぎしぎし動き出した。

白哲明敏な、中古代の勇士のやうな顔をしてゐる参木は、街を廻つてバンドまで帰つて来た。波打際のベンチには、ロシア人の疲れた春婦達が並んでゐた。彼女らの黙々とした瞳の前で、潮に逆らつた■■■[サンパン]の青いランプが、はてしなく廻つてみた。

〈書物展望社版〉

書物展望社版『上海』（一九三五・三）

—

満潮になると河は膨れて逆流した。測

候所のシグナルが平和な風速を示して塔の上へ昇つていった。海関の尖塔が夜霧の中で煙り始めた。突堤に積み上げられた樽の上で、苦力達が湿つて来た。鈍重な波のまにまに、破れた黒い帆が傾いてぎしぎし動き出した。白晳明敏な中古代の勇士のやうな顔をしてゐる参木は、街を廻つてバンドまで帰つて来た。波打際のベンチにはロシア人の疲れた春婦達が並んでゐた。彼女らの黙々とした瞳の前で、潮に逆らつた■■ [サンパン]の青いランプがはてしなく廻つてゐる。

〈ある長篇（初出）〉と〈改造社版〉の異同部分が網かけで、〈改造社版〉と〈書物展望社版〉の異同部分がアンダーラインで表示されている。これにより、三つの異本がどのように改稿されていったのかが、具体的にわかるようになっている。

この「横光利一『上海』デジタル版」により、異同の比較対照や語彙の検索が容易になった。今後の「上海」研究に役立つことは間違いない。この電子テキストをベースにして、横光利一「上海」に描かれた様々な表象文化の実証的研究を進めることが、今後の課題となる。また、電子テキスト本文および異同のミスを発見・修正することや、表示できない漢字（上記の「サンパン」や、パソコン文字等）をどうするかについても、考えていかなければならない。

（2）横光利一「上海」の典拠と同時代の上海表象

横光利一の「上海」（1928～1935）という長編小説を軸に、そこに描かれた上海の社会的・文化的表象を取り上げ、個々の研究者それぞれのアプローチによって分析を行ううちに、横光利一が「上海」を執筆するに当た

って、確実に参照したと思われる典拠（プレテキスト）を発見した。「私は上海という小説を四年がかりで書いたことがある。その間、私はかの地で買って来た上海に関する書物や雑誌と日本で発行されたものと、四、五百冊ほど手に入れた。」（『ホームライフ』、1937・10）という横光の言葉から、これまでも、典拠や同時代資料の調査を行われてきたが、確実な典拠を特定するにはいたらなかった。しかし、本研究において、上海表象についての資料を渉猟するうちに、少なくとも以下の3つのプレテキストの発掘に成功したのである。これらの成果はこれまでの「上海」研究に長足の進歩をもたらすものであり、同時代の上海表象を検証するために欠かせない資料である。以下、その概要を紹介する。

その一つは、上海日本商業会議所が編纂した『邦人紡績罷業事件と五卅事件及各地の動揺 第一輯』（菊版、896ページ、奥付なし。表紙に大正十四年九月卅日とある。）で、作品の中核をなす五・三〇事件に関するものである。これまでこのテキストが、横光の「上海」と関係付けられたことはなかった。両者の関係については石田仁志、田口律男『『上海』の典拠 — 『邦人紡績罷業事件と五卅事件及各地の動揺 第一輯』』（横光利一研究、第8号、2010、14—29）に詳細に論じられている。

次に典拠として考えられるのが、雑誌『国際パンフレット通信』（1930年11月6日発行）の374冊「英印和平交渉の決裂」である。これは1932年改造社より初めて単行本として出版された際、初出にはまったくなかった部分を加えた本文31章のインド独立に関する具体的な記述の部分の典拠といえよう。「上海」という作品のいわばサイドストーリー的な部分ではあるが、当時の上海の外国人表象を考えるにあたっては重要な部分であ

る。この典拠と上海の関係については掛野剛史「横光利一『上海』の典拠 —雑誌『国際パンフレット通信』・長野朗『華僑』—」（横光利一研究、第9号、2011、110-122）に詳細に記されている。

最後に、改造社版『上海』29章の典拠として東京朝日新聞経済部編『国際資本戦』（日本評論社、1925.5）を指摘しておきたい。この書物は、「東京朝日新聞」に連載された記事をまとめたもので「米国の巻」「英国の巻」「独逸の巻」「拂国の巻」「支那の巻」の五編からなっているが、その「米国の巻」の無電問題に触れた部分が、29章の典拠と考えられるのである。以下、引用してみる。

「ジー・イーは電機製作の外、マルコニー無電会社を買収して、千九百十九年にラヂオ・コーポレーション・オブ・アメリカを設立し、米国の無電界を支配せんとしている。否米国のみならず世界の無電界に、偉大な勢力を張っている。ロング・アイランドのロッキー・ポイントの世界最大の無電局から英、独、仏、諾、伊、日、布等に放送している。更に一方フェデラル無電会社をその支配下に置き、支那に無電局を設置せんとしている。然るに支那全土に向っては日本の三井が、フェデラルより三年早く千九百十八年に無電局設置の独占権を得ている。茲である有名な支那無電問題が起り、日、支、米の三国が支那を中心にして三角関係に於て啞み合っている。」

引用文から見て取れるように、フィルゼルの言葉にあったGEがマルコニーを買収したことから無電局のある「ロッキー・ポイント」という地名までの内容が、この記事に含まれている。とりわけ「ロッキー・ポイント」の無電局に触れていることは、『国際資本戦』を横光利一が参照したと推測する根拠である。

5. 主な発表論文等 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 掛野剛史、横光利一『上海』の典拠 —雑誌『国際パンフレット通信』・長野朗『華僑』—横光利一研究、査読無、第9号2011、110-122
- ② 石田仁志、田口律男、『上海』の典拠 —『邦人紡績罷業事件と五卅事件及各地の動揺 第一輯』横光利一研究、査読無、第8号、2010、14-29

[学会発表] (計1件)

- ① 石田仁志、田口律男、中沢弥、パネル発表「上海表象文化研究の試み—戦間期の上海を中心に—」日本近代文学学会、2011年5月29日、日本大学文理学部

[その他]

ホームページ等

「横光利一『上海』デジタル版」
<http://hazymoon.dip.jp/~shanghai/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渋谷 香織 (SHIBUYA KAORI)
駒沢女子大学・人文学部・教授
研究者番号：10196446

(2) 研究分担者

石田 仁志 (ISHIDA HITOSHI)
東洋大学・文学部・教授
研究者番号：80232312
田口 律男 (TAGUCHI RITSUO)
龍谷大学・経済学部・教授
研究者番号：80197251
掛野 剛史 (KAKENO TAKESHI)
埼玉学園大学・人間学部・准教授
研究者番号：00453465
松村 良 (MATSUMURA RYOU)
駒沢女子大学・人文学部・講師
研究者番号：00265571

(3) 連携研究者

中沢 弥 (NAKAZAWA WATARU)
多摩大学・グローバルスタディーズ学部・講師
研究者番号：20279821